

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 保健体育 第37号

- 小学校・中学校対象 -

平成23年4月発行

### 体育科(保健体育科)における学習評価の在り方

平成22年3月中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において「児童生徒の学習評価の在り方(報告)」(以下、報告と記す)がとりまとめられた。

この報告において、体育科(保健体育科)(以下、体育科と記す)では観点別評価の観点は従前と同様であると示された。このことは、体育科の学習評価の基本的な考え方を維持しながら、現状とその課題を踏まえ、学習評価の改善を図り、より望ましい学習指導を創造することが求められていると考える。

そこで、本稿では、体育科における学習指導の充実に資する望ましい学習評価の在り方について述べる。

#### 1 体育科における学習評価の現状と課題

体育科関係の研修会等において、現在でも指導場面で「技能」や「関心・意欲・態度」など一部の観点を中心とした評価が行われていたり、「思考・判断」の学習活動が指導場面に十分に位置付けられていないため、その評価も十分行われていなかったりする現状がみられる。

また、高橋(2010)も、新版体育科教育学入門の中で、現実には「技能」のみに焦点を当てその結果を評価する向きがあると指

摘している。すなわち、スキルテストで“できる・できない”という二項対立的に評価され、それが通知票などの評定に直結していることが少なくないと述べている。

体育科の学習評価も他教科と同様に学習指導要領に示す目標に照らして、図のようにこれまでと同様に四つの観点で評価を行い、それを基盤としつつ、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力等を相互に関連させながら、学習意欲の向上を図ることが重要である。

全教科を通じての評価の観点	体育科(保健体育科)の評価の観点
○ 関心・意欲・態度	○ 運動や健康・安全への関心・意欲・態度
○ 思考・判断・表現	○ 運動や健康・安全についての思考・判断
○ 技能	○ 運動の技能
○ 知識・理解	○ (小) 健康・安全への知識・理解 ○ (中) 運動や健康・安全への知識・理解

図 体育科の評価の観点

このことから、体育科において「思考・判断」や「知識・理解」なども見取ることができる学習の場を構成し、4観点到した学習評価を進めていくことが課題である。

#### 2 体育科における学習評価の基本的な考え方

上述の課題を踏まえ、体育科における望ましい学習評価を行うためには、現在の学習評価の現状を踏まえながら、次のことに

留意して、学習評価を進めていくことが大切である。

- ア 指導したことを評価する。  
児童生徒の到達度を判定するためのものだけではなく、指導したことの実現状況を確認し、指導の改善に生かす。
- イ 観点別評価により多面的に一人一人のよさを認める評価に一層努める。  
評価は技能などを一面的に評価するものではなく、観点別の評価の4観点に照らして多面的に一人一人評価を行う。
- ウ 評価規準による質的な評価を行う。  
運動の技能を中心としたタイムや回数等で量的に評価するだけでなく、児童生徒が獲得し、身に付けた資質や能力の質的な面を評価する。
- エ 「努力を要する状況(C)」と判断されそうな児童生徒に対する指導の手だてを考慮する。  
目標に準拠した評価では、学習指導要領に照らし合わせて、「おおむね満足できると判断される状況(B)」を実現できるようにするため、「努力を要する状況(C)」にある児童生徒へ具体的な手だてを講じることが大切である。

3 体育科における学習評価の実際  
学習指導における適切な学習評価を行うためには、次の手順で行うことが重要である。

- 1 学習指導要領の目標や内容を理解し、書かれていることを4観点に照らして整理する。
- 2 学習指導要領の内容のまとまりごとの評価規準を基に単元の評価規準を設定する。
- 3 単元の評価規準を指導と評価計画の指導過程に対応させながら適切に位置付ける。
- 4 指導と評価計画に基づき適切に学習評価を行い、今後の学習活動の充実に生かす。

ここで、上述の手順を踏まえた中学校第2学年の器械運動における学習指導と評価の実践例について述べる。

(以下の実践例については、鹿児島市立吉田南中学校の実践を基に作成)

**B 器械運動 【第1学年及び第2学年】**

**1 学習指導要領の内容を理解し、書かれている内容を4観点に照らして整理する。**

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。  
ア マット運動では、回転系や技巧系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。  
エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。  
鉄棒運動、平均台運動については本実践では行わないため省略
- (2) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

学習指導要領の内容を踏まえて設定する。



**2 学習指導要領の内容のまとまりごとの評価規準を基に単元の評価規準を設定する。**

観点	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全についての知識・理解
内容のまとまりごとの評価規準	器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、よい演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して学習に積極的に取り組もうとしている。	器械運動を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 <b>関心・意欲・態度及び思考・判断は学習指導要領の例示等を踏まえて設定する。</b>	器械運動の特性に応じた技を身に付けている。	器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。
単元の	器械運動の楽しさや喜びを味わい、学習に積極的に取り組もうとしている。 仲間の努力やよい演技を認	学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。	マット運動では、回転系や技巧系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発	器械運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。

技能及び知識・理解は学習指導要領の内容を踏まえて設定する。

評価規準	めようとしている。 分担した役割を果たそうとしている。 ペアやグループ学習の時、仲間の学習を援助しようとしている。 自分や仲間の健康や場の安全に留意している。	学習した技から、「はじめ-なか-おわり」などの構成に適した技の組み合わせ方を見つけている。 仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。 仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。	展技のいずれかができる。 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。	技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 器械運動に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。
------	--	--	---	--



### 3 単元の評価規準を指導と評価計画の指導過程に対応させながら適切に位置付ける。

時間	ねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
学習 (1 時間)	<b>オリエンテーション</b> 運動の特性や学習のねらい、計画、内容、学習の約束を理解する。 単一技の試しの運動に挑戦する。(マット、跳び箱運動) 自分の力に合った課題をつかみ、学習の見通しをもつ。				器械運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。
学習 (4 時間)	<b>ねらい1：今できる技がもっと滑らかにできるようにする。</b> マット運動の単一技の練習を行い、滑らかにできるように工夫する。 ・接転技群 ・ほん転技群 跳び箱運動の単一技の練習を行い、滑らかにできるように工夫する。 ・切り返し系 ・回転系	器械運動の楽しさや喜びを味わい、学習に積極的に取り組もうとしている。 ペアやグループ学習の時、仲間の学習を援助しようとしている。	学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。 仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。		
学習 (4 時間)	<b>ねらい2：できそうな技に挑戦し、できるようにする。</b> マットコース、マット・跳び箱運動コースから自分の課題に合ったコースを選択し、技の組み合わせを考えながらできそうな連続技に挑戦する。 ・単一技から連続技への挑戦 ・基本技から発展技への挑戦	分担した役割を果たそうとしている。 自分や仲間の健康や場の安全に留意している。	課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 学習した技から、「はじめ-なか-おわり」などの構成に適した技の組み合わせ方を見つけている。 仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。 (8/10)	マット運動では、回転系や技巧系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。	技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。



### 4 指導と評価計画に基づき適切に学習評価を行い、今後の学習活動の充実に生かす。

過程	時間	学習活動	指導上の留意点( )と評価( )
つ か 分 む	15	1 あいさつ、健康観察を行う。	出欠の確認、健康状態を把握し、見学者に対し学習への参加の仕方を指導する。
		2 準備運動、体ほぐしの運動を行う。	仲間と交流させながら体ほぐしの運動を行い、心と体を運動に取り組める状態に高める。
		3 補助運動を行う。	一つ一つの動きが主運動に必要な動きやポイントを含んでいることを意識させる。
		4 本時の学習目標・学習の流れを確認する。 <b>組み合わせた技をペアで教え合いながら練習し、滑らかにできるようになる。</b>	生徒の動きの状況に応じて、示範を行い、動きやポイントの理解を図る。 本時の目標と学習の流れを確認させ、学習の見通しをもたせる。

高 め る 28 分	5 前時に組み合わせた技をペアで確認し合う。	学習カードを活用し、ペアでそれぞれの学習課題の確認及び把握をさせる。
	6 課題に応じた練習方法や練習場所を選択し、教え合いながら練習を行う。 ・ マットのみを組み合わせた技 ・ 跳び箱とマットの組み合わせ技の練習 ・ 単一技の練習	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>思・判：学習した技から、「はじめ - なか - おわり」などの構成に適した技の組み合わせ方を見つけている。</p> <p>評価方法：学習カード、観察</p> <p>(C):技の組み合わせが見つけれない生徒への具体的指導 掲示資料等を基に今できる技を確認させながら、「はじめ - なか - おわり」につながりやすい技の組み合わせを考えるように助言する。</p> </div>
	7 グループで発表会を行う。 ・ 組み合わせた技の発表 ・ 単一技のできばえの発表	<p>生徒のつまずきや課題に応じて自動再生装置等のICT機器を活用しながら、技のポイントを理解させる。</p> <p>試技後、リーダーを中心に良い点や気を付ける点を話し合わせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>思・判：仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。</p> <p>評価方法：観察</p> <p>(C):仲間のよい動きを指摘できない生徒への具体的指導 指摘できる仲間とペアを組ませ、どのような観点で見ても指摘しているかを参考にし、話し合いに参加するよう助言する。</p> </div>
	<p>評価計画に基づき適切に評価を行い、指導と評価に生かす。</p> <p>Aさんは倒立前転の時、足先まで伸びてきれいだったよ。</p>  <p>【ICT機器を活用した発表後の話し合いの様子】</p>	

終末の「振り返る」過程(7分)は省略

本実践例では、技能中心の評価になりがちである体育科の学習評価において、「思考・判断」をはじめとする4観点の評価規準を指導と評価計画に適切に位置付け、学習評価を行い、学習指導の充実に努めている。

特に、1単位時間の学習指導における評価の実践例では、体育科において評価しにくいといわれる「思考・判断」の評価を位置付けている。具体的に述べると、本時では評価計画「思考・判断」を指導過程に即して適切に位置付け、学習カードや観察で評価している。さらに、その際「努力を要する(C)」と評価した生徒への指導の在り方も想定し、該当する生徒に対する指導の充実に役立っている。

各学校においても、各単元において運動の

特性を踏まえながら、4観点のねらいに即した組織的・計画的な学習指導と評価の改善に取り組み、仲間とかかわり合いながら、運動の楽しさやできる喜びを味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力をもった児童生徒の育成を図っていただきたい。

- 引用・参考文献 -

高橋健夫他 著 新版 体育科教育学入門 平成22年 大修館書店

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』平成20年 東山書房

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」平成22年 文部科学省

平成22年度中学校教育課程資料第3集保健体育 鹿児島県教育委員会 (教職研修課)